

## 平成18年度育友会定期総会

### 「学生支援」が軌道に

#### 初めて生田キャンパスで開催

平成18年度育友会定期総会が6月3日に初めて生田キャンパスで開催された。本部、支部役員、大学教職員など225人が出席。会の発展のための熱心な質疑・討論が交わされ、満場一致で全議案を承認。新役員を選出し、新会長には小川恵三氏が選任された。



▲あいさつする受川会長

総会は全体の司会を松田了副会長が務め、初めに受川純一郎会長が「育友会も2年後には創立50周年を迎えます。会員のご協力により、学生を支援する活動もより充実してきました。本日は率直なご意見をお聞かせいただき、会の活動に反映させたいと思います」とあいさつ。

続いて日高義博学長、学校法人を代表して出牛正芳理事長が「日ごろの大学へのご支援に謝意」を表するとともに「大学の創立130年記念事業が着々と進みつつある」ことを披露した。

受川会長が議長となり、議案の「平成17年度事業報告」、「同収支決算・監査報告」、「同18年度事業計画(案)」、「同収支予算(案)」が計られ、いずれも活発な討論ののち、満場一致で承認された。

事業報告では眞淵典男副会長から、「支部懇談会」に2665人が参加、大学の情報や子女の現況を聞き、教員からの助言を受けたことや、4カ所で「就職懇談会」を開催し、子女の将来の方向性や、就職活動のアドバイスを受けたこと。「学生への支援活動」では学生自治会及び傘下団体の学術文化会、体育会、連合県人会、公認サークルなどの活動に対し、62件を援助。一般学生の創造的な企画、研究、社会活動の成果などに対して「育友会奨励賞」で支援表彰。家計急変・災害罹災学生に対して、奨学金を支給したなど14項目の活動内容を報告。会場からは、新潟支部の代表から、一昨年の中越地震の際の育友会の温かい支援に対してお礼のことが述べられた。また、事業計画案では、支部独自の活動を支援するため、新たに「支部活動特別援助金」制度を設置したことなどが報告された。

総会ではこのあと本部役員を選出、紹介が行われ、満場の拍手で小川恵三氏が新会長に選任された。小川会長は「私たちの子女はほとんどの時間を大学で過ごし、学んでいます。私たち親も熱い専大ファンです。皆さんと一緒に力を合わせて、学生を支援する育友会活動を充実させていきましょう」と呼びかけ、会場からは大きな拍手がわいた。

退任役員を代表して、受川前会長があいさつし、川田智恵美前副会長が閉会の辞を述べ、終了した。

## 育友会

### 新会長の横顔 — 小川恵三さん

#### 身近な“応援団”として

これまで「父母会」といわれる会合には一度も出たことがなかったが4年前、長男の入学式に出席。強い印象を受けた。

「専修大学には、誇りうる歴史と伝統がある。素晴らしい先生方と共に学習環境が整っている」

その後、幹事として育友会活動に取り組むうち、ますますその感を強くした。特に、「建学の精神」と将来へのあるべき大学の姿を描く日高義博学長に共感。「派手ではないが堅実で誠実」。そんな専修大学への愛情は「人一倍強い」。それだけに、大学への注文も忌憚ない。

「歴史と伝統のみに頼ることなく、真に評価される大学として育てほしい」と願う。

「私たち父母は、校友会と共に最も身近な専修大学の“応援団”。協力できることはさまざまな場面にある。我々の声をきちんと受け止め、反映する姿勢を持つ大学組織であってほしい」。特に「新しい分野に挑戦する勇気が必要。組織が大きくなるとなかなか踏み込めない。それは我々育友会活動でも同じ」。夏の支部懇談会や就職懇談会などは、中身の伴った会合にしたいと力を込める。

「子供の教育は女房任せで放任主義」だったが、高校時代までひ弱だった長男をいつも気にかけていた。それが浪人生活、経済学部でのキャンパス生活、就職活動を経て4年次となったいま、たくましさを感じるようになった。「失敗をしながらも大学での出会いや体験から得たものが身につき、大きく成長する時期だったのでは」。懐の深い父親の笑顔を見せた。

神戸市出身。一橋大学社会学部卒業。39年間勤務した石川島播磨重工業では法務畑を中心に歩んできた。今年4月から合資会社小川総研社長。2男2女には「周りを明るくする存在になってほしい」と話している。63歳。



## 育友会全国支部長会

### 全68支部長が活発に発言

平成18年度全国支部長会が6月4日、前日の定期総会に続き生田キャンパスで、全国68支部の役員、本部役員など110人が出席して開かれた。

松田了副会長の司会で進められ、小川新会長が「皆さんのパワーを結集して、活動が盛り上がるように、今日は全支部長が発言できるように設定しました。積極的にご意見をいただきたい」とあいさつ。

続いて学校法人を代表して三島英雄専務理事が、「専修大学は、3年後の創立130年に向けて、数々の記念行事を企画しています。『社会知性の開発』を目標に掲げ『学生を基本に据えた大学づくり』を進めていますが、記念行事も学生を中心にしたものを計画しています」と述べ、ご父母の理解と協力を訴えた。

会議では、会長の提案通り全支部長が発言。今夏の支部懇談会の進め方、会員への呼びかけ、役員選出方法などで各支部の運営方法、アイデアなどが報告され、昼食をはさんで活発な情報交換が行われた。

初めて生田キャンパスで全国支部長会を開いたことについては「学生の大半が学んでいるキャンパスを見学でき、とても有意義だった」と話しているのが印象的だった。



▲支部懇談会や会員への呼びかけを討議